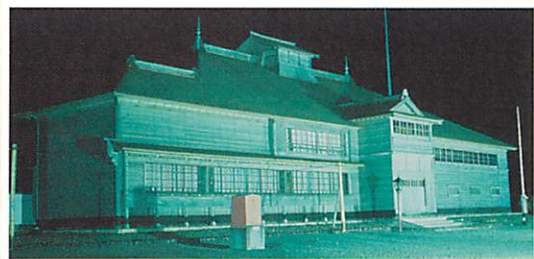


幻の魚がのこした日本最北端の重要文化財建造物  
未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選  
北海道遺産「留萌の歴史ニシン街道」  
地域活性化に役立つ近代化遺産

# 鯨番屋



北海道  
小平町



うろこがおどりまわる。

「よし。もたもたしないので

引っぱれよ!」……

男たちは荒波をしのいで

大漁を追う

まるで己の夢をつかみ取るように

## 気の荒いヤン衆の喧噪、大漁につぐ大ニシンと共に運命を辿った鯨番屋。そ

明治から大正にかけて北海道西海岸の鯨漁は全盛を極めており、特に鬼鹿の海岸は千石場所とも言われ、中でもこの地「天登雁村」の前浜一帯は鯨の群来と共に海の色は乳色になり、群飛ぶかもめと、波間を渡るヤン衆の沖揚音頭、もっこ背負いの人の波で浜は湧き返っておりました。

重要文化財に指定されたこの建物は明治後期当時の資産家、花田伝作氏によって建てられ、屋号を○といひ最盛期には18ヶ統の鯨定置網を経営する道内屈指の鯨漁家でありました。

この番屋はその本拠として、5ヶ統の漁夫の外船大工、鍛冶職、屋根職



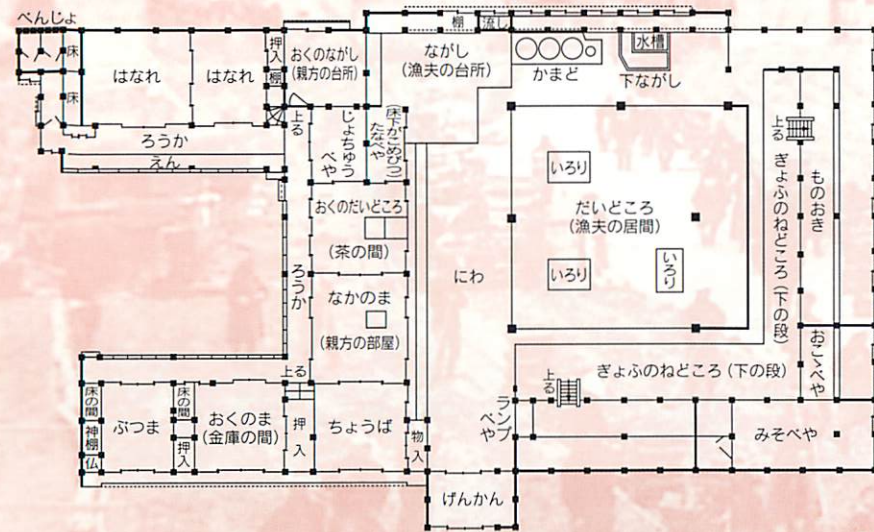
## 重要文化財旧花田家番屋の概要

- 所在地 北海道留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2
- 所有者 小平町
- 指定年月日 昭和46年12月28日(文部省告示第220号)
- 構造形式 木造平屋(一部二階)建 正面西向 二階建玄関突出  
本屋東側南隅より第5間~第14間まで下屋付、屋根こけら葺  
寄棟造(玄関のみ入母屋造) 外部下見板張、基礎自然石、土台敷  
桁行(間口) 39.390m 梁間(奥行) 22.722m
- 規模 面積 一階部分 801.167㎡ 二階部分 105.310㎡  
合計 906.477㎡
- 番屋の歴史 創立は一説に明治29年と言われていましたが、今時の解体調査の結果仏間大引下の束に書かれた墨書やヤン衆寢台羽目板の落書から親方生活部分の内部造作は明治38年(壁紙下貼の新聞紙の日付が明治37、38年)頃と考えられ、ヤン衆生活部分はこれより2~3年早く出来たものと推定されます。故花田作三氏の生前の話によれば、明治29年頃山林を入手伐採、このころから製材等に着手したものとされます。この番屋は、すべて地元「大楸」の山から切りだし三半船で海上を運び、木挽の手によって製材されたものです。小平町では、昭和46年重要文化財の指定と共にこれを買収し、3年の年月と約1億9千万円の費用を投じて解体修復したもので既に稀有となった古民家建築物鯨番屋の代表的遺構である。
- 花田家紹介 祖先は安芸の国の人と言われ、2代伝七氏の時より鯨漁の実際に就き、文久3年には家族と共にテントカリ(現在の広富)に寄留し本格的に鯨漁場を経営しました。  
㊦(満留二)花田家は3代伝七の次男伝作氏が明治21年に分家し鯨漁場を営んだのに始まり、最盛期には、18カ統の鯨定置網(俗に建網と言う)を経営、雇人も500人を超え、米蔵、網蔵、舟蔵、粕蔵、作業場等100棟に近い建物を所有、蒸気機関を設置しウインチ、トロツコの使用と共に各漁場間に私設電話を施設する等当時としては最新の近代化漁法を駆使した大鯨漁家でした。

# 北海道開拓の歴史を秘め ニシン漁場の姿を今に伝える

旧花田家番屋平面見取図

(一階)



▲当時の鯨場親方の  
豪放な気性を表現する雄大な居室



小平町観光交流センター 2階

# 歴史文化保存展示ホール



〈所在地〉  
北海道留萌郡小平町字鬼鹿広富48番地の5  
入場料/無料

今日の小平町は、波濤渦巻く荒波にいとみ鯨を追った漁業、笹の生い茂る原野に鋤をおろし耕地を広げた農業、副業として現金収入確保に役立った養蚕、伐木のため厳寒の冬季に山林に分け入った林業など様々な人々の営みによって築かれています。小平町を築いた先人の営みを数々の資料を基に小平町のあゆみを紹介します。

## 樺太引揚船 泰東丸の悲劇

樺太からの緊急疎開者を乗せた泰東丸は、昭和20年8月22日午前9時55分頃に小平町鬼鹿沖でソ連潜水艦の攻撃を受けて沈没、婦女子を中心に667人の死者・行方不明者を出しました。昭和49年9月から海上自衛隊・厚生省は、5度にわたる泰東丸捜索を実施しました



昭和58年、樺太連盟による泰東丸捜索

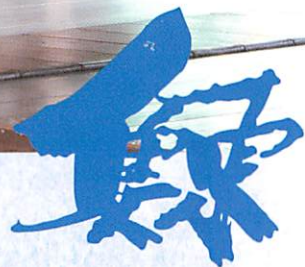
が、発見には至りませんでした。昭和58年7月地元漁民有志によって船体が発見されると、同年に樺太連盟、翌昭和59年には厚生省による遺骨の収集が実施されました。しかし、船体の破損は著しく、船体から一片の遺骨も回収出来ませんでした。小平町では樺太連盟と厚生省から、海底より引き揚げた泰東丸遺品の移管を受けて歴史文化保存展示ホールに展示しています。戦後60年を経て、大切にそして永く、泰東丸遺品とともに戦争の悲劇と平和への願いを語り継いでいきます。



海底の泰東丸



荒波をしのぐ小船  
荒波に泳ぐ魚群  
男たちは大漁を追う  
海の男は群衆に喜ぶ  
「引っぱれ！もっと強く網を引け！」  
きらきらと網の中で



## 漁、大いなる隆盛 して今は昔——。

等総勢200人前後の人を収容しておりました。

当番屋は道内に現存するものでは最大の規模を有し、木割りは大きく豪壮であり、空間は雄大で、玄関から奥に土間を通し、その北側に親方居住部分を、南側に漁夫の生活部をもうけ、漁夫の寝台(ねだい)と中二

階に備えて三段とし、その機能と合理性を求め、俗に番屋と呼ぶ鯨漁家特有の平面構成となっています。かつて一起し千両と謳われた鯨は既に幻の魚となりヤン衆のさんざめく声も絶えて久しく、今はただ番屋のみがその影を残し、ヤン衆の息吹を今に伝えております。

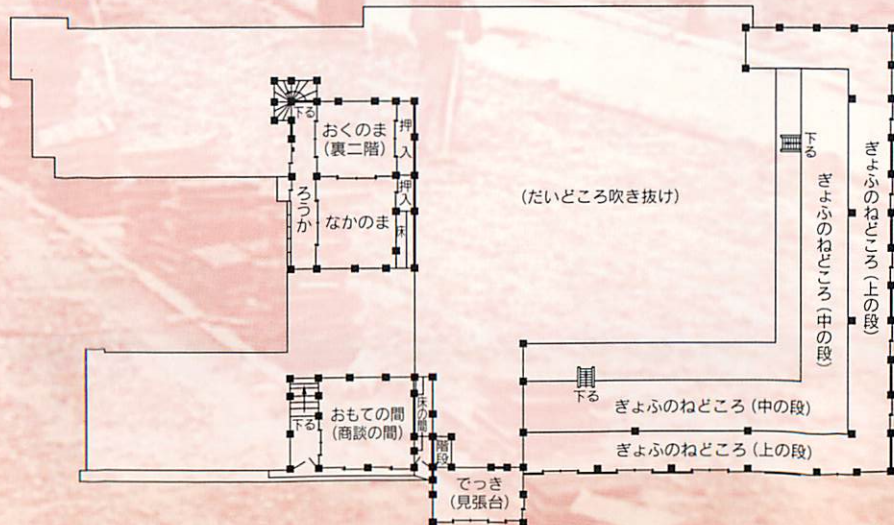


◀日、さしこむ天窓、暖炉裏と縦横に走る木材の綾

▼ヤン衆のかつての「ものおき」には生活の歴史がいっぱい。



(二階)



### 観覧のご案内

- 公開の期間/通年
- 休館日/毎週月曜日及び  
12月28日~1月15日  
(但し6月第3月曜日~8月第2月曜日までは無休)
- 公開の時間/8:00~17:00 (5~10月)  
9:00~16:00 (11~4月)
- 観覧の料金/  
大人(高校生以上) 400円  
小人(小・中学生) 150円  
20人以上の団体 300円
- 交通機関  
バス……沿岸バス・花田番屋前停留所下車
- お問い合わせ  
北海道留萌郡小平町字鬼鹿広富  
旧花田家番屋管理事務所  
☎0164-57-1411  
北海道留萌郡小平町字小平町  
小平町教育委員会 ☎0164-56-9500

### 観覧される方々へ

この建物は国が指定した重要文化財です。今後数百年にわたりて先人の足跡を後世に伝える貴重な建造物です。観覧される方は特に次のことをお守りください。

記

- ◆ 構内での火気の使用、喫煙等は固く禁じます。
- ◆ 構内での飲食はしないでください。
- ◆ 建物や展示品を破損したり汚したり移動などはいしないでください。
- ◆ 危険物(油類、火薬類その他引火のおそれのあるもの)の持込は厳禁します。
- ◆ 泥酔者等他の観覧者に迷惑を及ぼすおそれのある人の入場はおことわりします。
- ◆ ペットの入場はご遠慮ください。
- ◆ その他係員の指示に従ってください。

### ACCESS



- 稚内 → 40 → 232 → 旧花田家番屋 乗用車 2時間50分  
路線バス 3時間10分
- 札幌 → 231 → 232 → 旧花田家番屋 乗用車 2時間50分  
路線バス 3時間10分
- 札幌 → 道央自動車道 深川留萌自動車道 → 232 → 旧花田家番屋 高速バス 2時間40分
- 旭川 → 12 → 233 → 232 → 旧花田家番屋 乗用車 2時間  
路線バス 2時間20分